



不二見児童クラブ

体験授業レポート

「内容的にも満足できたようで、『また同じことをしたい。』と全員が言っていました。」

不二見児童クラブが、古代の物を見たり触れたりして、今の生活の便利さを知ることがを目的に、小学1年生19人、2年生22人、3年生13人、4年生9人、6年生1人、指導員8人が、展示室の見学、火起こし、弓矢、勾玉作りの4つの体験を行いました。

展示室の見学

はじめに、年表で時代の確認をしました。低学年にもわかりやすいように時代を遡りながら話をしました。その後、思い思いに興味をもったところで立ち止まりながら、第1展示室から第3展示室、体験学習室と見学しました。低学年でも、興味津々でじっくり見ていました。

「昔の道具や歴史などを教えてもらって、昔の生活が大変だとわかりました。」

「普段できないことだったので、こうゆうことをすればできるということがわかって、とても楽しかった。」

勾玉作り体験

最初に、勾玉が縄文時代から古墳時代に装身具として作られ、日本独特の形をしていることなどを説明しました。次に、勾玉作りキットの袋から、滑石と紙やすり3枚、ひもを取り出し、1番粗い紙やすりで滑石の角を削っていききました。長い時間削っていると飽きてくると思いましたが、集中して削っている子が多かったです。2番目のヤスリでキズを取り、3番目のヤスリでつやを出し、蛍光ペンでそれぞれ思い思いの色を塗って、ひもを通して出来上がり。

「勾玉を削るのがすごく大変でした。」

弓矢体験

弓に触るのも初めてな子が多く、なかなか上手に矢を前に飛ばせずに、目の前に落ちてしまう子が多かったのですが、少しコツを覚えれば矢が勢いよく飛び、的に当てることができました。一人が5射し、的の得点の合計点を得点ボードに貼ります。さすがに250点満点はいみせんでしたが、みんな楽しそうにやっていました。

「普段できないことをやれてとても楽しかったです。」

火起こし体験

低学年には難しいかと思いましたが、上級生が手助けしながら弾み車を回しました。弾み車が調子よく回り始めると火種が少しずつできはじめ、火口に火種を慎重に運び、フーフータイムも根気よくやり、やっとの思いで火を起こすことができました。昔の人の生活の大変さが少しだけ理解できたようです。

支援員の感想

「年表、展示室見学は、1・2年生では難しいかなと思っていましたが、興味津々で、聞いたり見たり触れたりしていました。コロナ禍で2班に分かれての活動は大変良かったです。火起こしはなかなか大変だったようで、『昔の人ってすごい大変だったんだね。』『今はマッチやライターがあるから簡単に火がつくけど、火起こし大変だったー。』弓矢は、『もっとやりたかった』の声が多かったです。内容的にも満足できたようで、『また同じことをしたい。』『楽しかったー。』と全員が言っていました。前回(5年前)体験させて頂いたミニにはわ作りよりも楽しんで勾玉作りができました。1年生には難しいと言われていましたが、首にかけられた勾玉はとても立派な物でした。ありがとうございました。」